

## 各国の事後活動組織の活動



<SWYAA国際連盟正式加盟国>

オーストラリア

SWYオーストラリアと日本・オーストラリア・フレンドシップ協会(JAFA)のネットワーキング・ディナー

日本・オーストラリア・フレンドシップ協会(JAFA)と協力してネットワーキング・ディナーを開催しました。SWYオーストラリアは、日本に愛着を持っていたり、国際協力を熱意があったり等、共通の価値観や興味を持つアデレード地区の人々が集まる場を作りました。ディナーでは、SWYオーストラリアとJAFAの情報を発信しました。参加者は、ネットワークを築き、SWYオーストラリアやJAFAの役員に質問をする機会もありました。5名の既参加青年と20名のアデレードの人々が参加しました。

SWY KIVA プロジェクト (継続プロジェクト)

50名以上の既参加青年(過半数がオーストラリアに在住)がKIVA Facebookグループのメンバーです。

このグループによりA\$16,000以上が融資されました。オーストラリアの既参加青年(SWY23)が、マイクロファイナンスに熱心に取り組み、グループを作り、ウェブサイトを立て上げました。世界中の人々がウェブサイトを通じて、発展途上国でのプロジェクト支援のために融資をすることができます。貸付金は時間をかけて返済されます。多くのオーストラリアの既参加青年に加えて、他国からの既参加青年もこのプロジェクトにかかわっています。

[http://www.kiva.org/team/ship\\_for\\_world\\_youth/members](http://www.kiva.org/team/ship_for_world_youth/members)

SWY KIVAオーストラリアの統計はp.27を参照



パーレーン

ケニアのスラムの小学校支援活動

2013年12月、ケニアの第22回「世界青年の船」事業既参加青年が運営するダンドラ・スラムにあるすばらしい学校プロジェクトを支援するための資金調達の活動がパーレーンで始まりました。この学校プロジェクトは、ダンドラ・スラムに住む人々に草の根レベルの変革を起こし、子供たちに基礎教育を与えるという目的で2006年に始まりました。

ツペンダンネ・インターナショナルは、2012年に第22回「世界青年の船」事業の既参加青年によって国境を越えて設立された団体で、資金調達活動を実施し、このプロジェクトの認知度を高め、他団体や人々とネットワークを広げることで、この学校(イヴズ・デイ・ジュニアスクール)の子供たちを支援することを目的としています。この学校を支援するためのビジネスプランがしばらく前に計画されていましたが、資金不足のために実行することができませんでした。学校が自立して運営できるようにするために考えられたこの養鶏ビジネスの計画を知り、2013年12月から2014年3月にかけて、パーレーン国内で、SWYAAパーレーンのメンバーによって募金活動が始まりました。この募金活動により、プロジェクトを開始するために必要な経費として合計US\$4,246が集まり、不足分は、ケニアと日本の支援者による寄付を合わせてプロジェクトに必要な経費全額が集まったため、養鶏ビジネスを開始しました。数週間後には、最初の生産サイクルが完了する予定です。

ブラジル

2013年は、SWYAAブラジルにとって大変重要な年でした。次第に多くの既参加青年が積極的に組織にかかわるようになり、より積極的に社会貢献活動を行っています。

2013年3月に実施された既参加青年東京連絡会議にLeonardo Kajioka Nardon会長が参加した後、会議の成果やブラジル国内の既参加青年の活動を日本大使館の文化部に報告することで、深いつながりが持てるようになり、飛躍的に良い関係を築いています。

グローバルリーダー育成事業については、参加青年選考や出発前研修にかかわりました。また、初めて、既参加青年がナショナル・デリゲーション・リーダーに選ばれました。

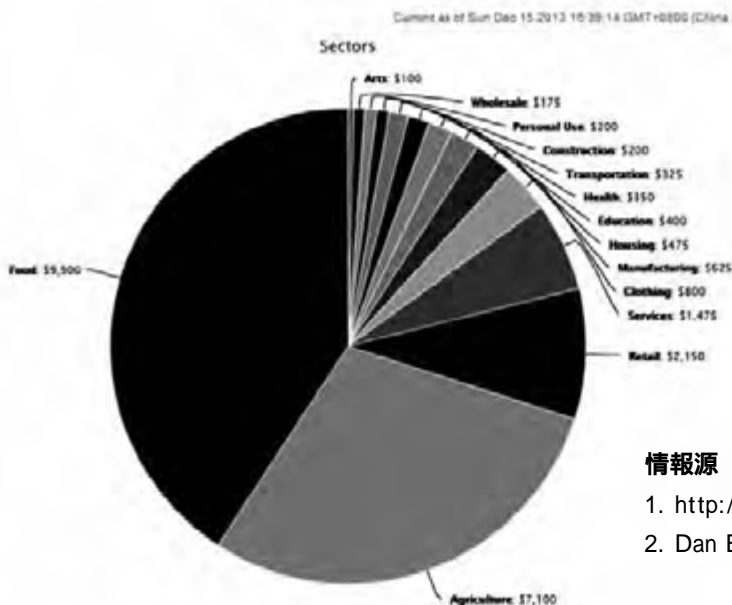
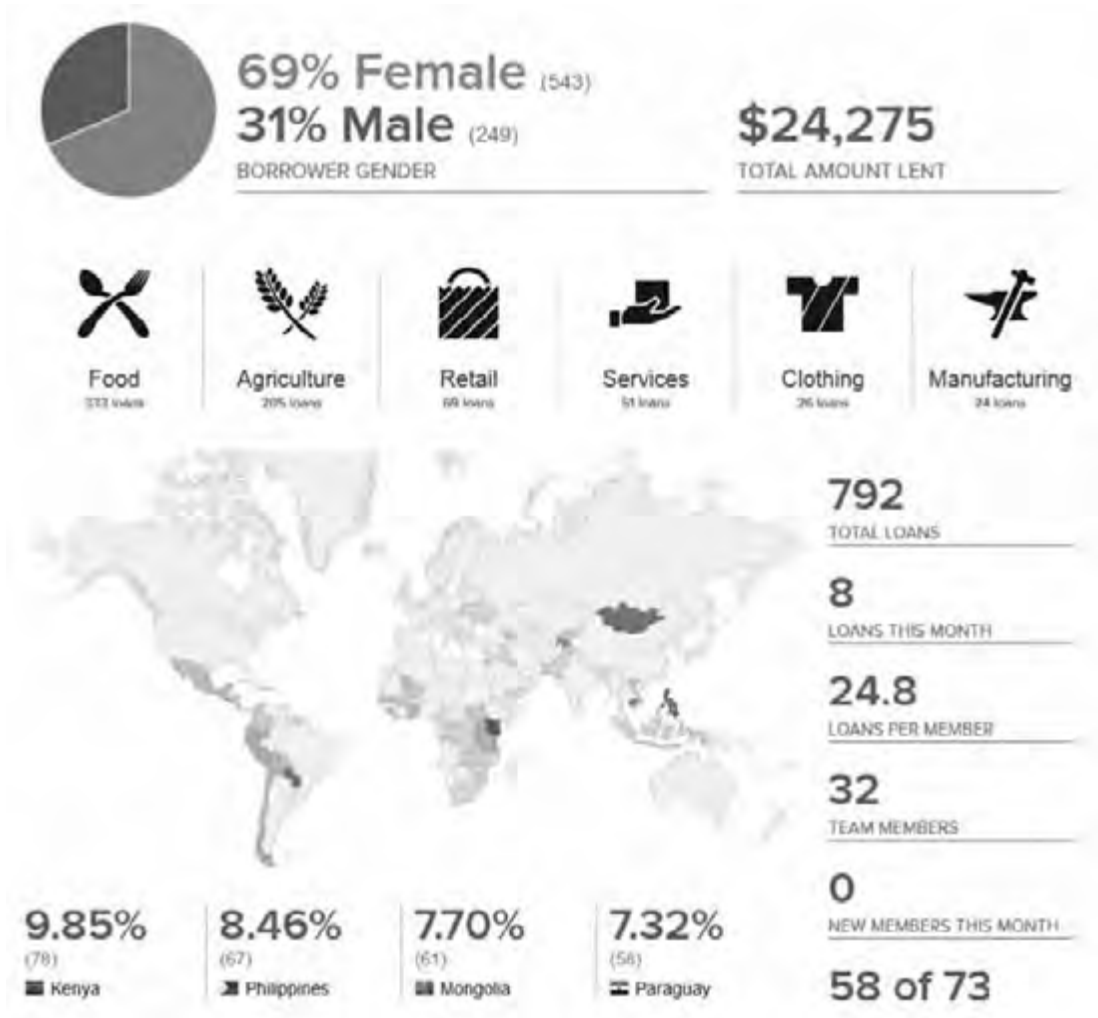
SWYAA文通活動 ブラジル - 東京 - チリ

教師として活動している既参加青年(SWY23)が国際活動を立ち上げました。ブラジルの既参加青年をつなぐメーリングリストにアイデアが流れたのをきっかけに、それが2013年初めにSWY23のFacebookグループで共有され、3名の教師(ブラジルのEduardo Baraúna、日本の松村美緒、チリのManuela Rioseco Vargase)が興味を持ち、3か国の生徒の間で最初の文通を開始しました。50名のブラジルの生徒が生活、人柄、将来の夢についてポルトガル語で手紙を書き、彼ら自身で英訳しました。11月に手紙はチリと日本に送られ、両国の生徒がブラジルへ返信する予定です。より多くの教師が近々活動に加わる予定です。

SWY KIVA オーストラリアの統計

2013年12月15日現在

- 総融資金額\$24,275
- 女性543名 (69%)、男性 249名 (31%) がSWY KIVAから小規模融資を受け取っている。
- \$9,900が食物に、\$7,100が農業に費やされている。
- 貸付金総額の33%がケニア、フィリピン、モンゴル、パラグアイの借り手に渡っている。



情報源

1. [http://www.kiva.org/team/ship\\_for\\_world\\_youth/](http://www.kiva.org/team/ship_for_world_youth/)
2. Dan Bao (SWY 19, SWY24)



## カナダ

### ボランティア活動

SWYAAカナダの多くのメンバーが各地域でボランティア活動を行っています。組織の役員は、どのようなボランティア活動にグループとしてかかわるのが最も良いのか、どのような活動が多くの地域の支援になるのかを調べています。

ここでは、数名の既参加青年がかかわった二つのボランティア活動を紹介します。

1. 2013年秋、既参加青年数名がAu Contraireフィルムフェスティバルの運営と実行にかかりました。フェスティバルの目的は、精神疾患に対する見方を変えることでした。モントリオール美術館とコンコルディア大学が提携し、いくつかの大きな民間団体と地元企業がスポンサーになりフェスティバルが行われました。精神衛生部門の様々な人々が数多く集まる三日間のイベントには、地元の高校生のための特別プログラムもありました。初日の夜には、地元のメンタルヘルスの団体への資金集めとして、大規模な催しが開かれました。既参加青年は、このフェスティバルに全面的にかかり、様々な活動をしました。イベントでは、精神疾患に関する多数の思慮深い意見交換が行われ、成功裏に終了しました。
2. 2013年12月～2014年1月にかけて、多くのSWYAAカナダの既参加青年はヨルダンのシリア難民のための募金活動をしたほか、難民キャンプに冬物衣料を寄付しました。



## チリ

### クリスマスのプレゼントとクリスマスの笑顔

(2013年12月12日 サンティアゴにて)

施設 (Patronato Nacional de la Infancia) の子供たちへのクリスマス・プレゼントの寄付活動です。この施設は、子供や若者の権利 (健康管理、教育、公正さ、仕事、文化、レクリエーション、家庭生活の健康と安全等) を守ることを目的とし、1. シェルターの運営、2. 国を通じてのデイ・ケア・センターの資金集め、3. 子供たちと司法制度の橋渡し役として虐待家庭から養護施設やシェルターへの子供たちの移動、4. 養子縁組等、多くの取組を行っています。我々は、おもちゃを集め、それらをプレゼントを集めているショッピングセンターに持っていきました。当日参加できなかった人はプレゼントを送り、貢献しました。10名の既参加青年がプロジェクトに参加しました。



## コスタリカ

### ジャパニーズ・ウィーク

日本週間が日本大使館によって企画され、ナショナル大学 (Universidad Nacional, UNA) で開催されました。

SWYAAコスタリカが準備と運営にかかりました。



## エクアドル

SWY25周年シルバー・パーティー（2014年1月7日）

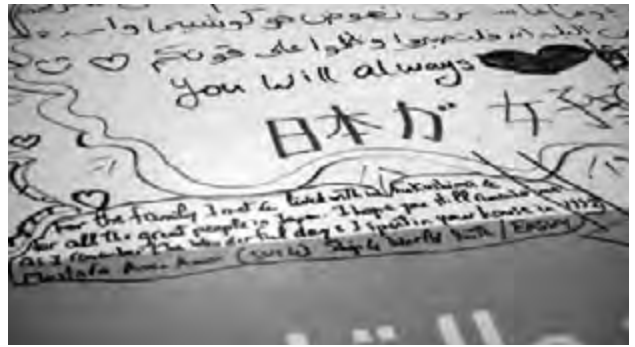
SWYAAエクアドル主催の夕食会が「世界青年の船」事業の25年を記念して開かれました。思い出を共有し、異なる世代（回生）で事業経験を語り合う機会となりました。最も参加が多かった既参加青年は1回生であり、他にも5回、7回、22回生も出席しました。また、夕食会にはSWYAAチリのKarla Cortés会長とエクアドル人でチリ在住のJorge Chattin（SWY9）もスカイプを通じて参加しました。



## エジプト

東日本大震災で被災した人々を勇気付けるメッセージ作成

SWYAAエジプトは、カイロにある日本大使館に招かれ、ジャパン・エジプト・ネットワーク（JEN）主導の東日本大震災から3年が経つ東北の人々を勇気付けるメッセージをカイロの日本大使館にあるパネルに書いて送る活動に参加しました。パネルは、2013年12月から2014年1月にかけて準備され、2月の中旬にエジプト人の力士の大砂嵐によって渡されました。東日本大震災の追悼式は2014年3月に行われます。3月10日に日本大使館のホールで開催される集いでは、未だに日本の人々と日本政府にとって最優先事項である惨事からの復興を願い東北を訪れた様子と人々を勇気付けるメッセージが描かれたパネルを手渡すビデオが上映されます。



## フィジー

サイクロン「エヴァン」による被害の救済活動

フィジー西部で2012年12月に起きたサイクロン「エヴァン」により被害を受けた家族を支援するための復興プロジェクトが実施されました。主に新学期を迎える子供たちが学校へ戻るために必要な支援をすることをねらいとしました。プロジェクトには、13名の既参加青年がかかわり、32家族の支援を行いました。フィジー西部における災害マネジメント・オペレーションにかかわるSitiveni Rokoro（SWY23）によって選定された家族を支援対象とし、文具セット（小学生用20個、中学生用10個）、食糧供給セット（21パック）が提供されました。

このプロジェクトは、日本青年国際交流機構（IYEO）から寄付された大規模災害支援金により実現しました。



## ギリシャ

「世界環境デー」における環境啓発活動

SWYAAギリシャの15名は、環境省、アテネ当局、青少年事務総局と連携して、6月9日の18:00～21:30にシントグマ広場等で行われた環境啓発キャンペーン活動に参

加しました。訪れた人々は、環境ゲーム、種まきワークショップ、ペーパー・リサイクル・ワークショップ、自宅でコンポストを作るワークショップ、野菜農園、折り紙ワークショップ、エア・リサイクル・パーク、リサイクル・ゲームなどの特別体験をしました。



## インド

### オープンスクール

600名の4歳～14歳の恵まれない子供たちが10箇所のオープンスクールで学習向上のための革新的な教育方法を用いて学んでいます。オープンスクールでは、学校概要に沿った小学校レベルまでの教育を受けることができ、教科書や学用品が子供たちに無料で提供されました。2010年にプロジェクトが開始しましたが、その功績を称え、インドのキヤノン株式会社は2012年～2013年の活動を支援しました。インドにあるNPO(Sesame Workshop)が提供した保健衛生学習キット(フラッシュカード、フリップチャート、ピクチャーマット等)を使って



の教育が行われています。また、デリーに在住の日本人が定期的に学校を訪れて子供たちと交流しています。

インドと日本のフレンドシップ・グループ・ミーティング (Indo-Japan Friendship Group -IJFG)

SWYAAインドは、人と人がつながり、社会的・文化的交流及びインドと日本の二国間交流の促進を目的として、7年前にインドと日本のフレンドシップ・グループ・ミーティング (Indo-Japan Friendship Group -IJFG) を設立しました。今年、社会的発展、芸術、文化、産業、貿易、宗教、学術的分野からの専門家と学生たちを招き2回の会合が開かれました。インドと日本の人々が、二国間の対話を促進し理解を深めるための意見交換をして、互いの文化について学びました。各会合では、ゲスト・スピーカーが招かれ、対話型の発表が行われました。



## 日本

### 日本青年国際交流機構 (IYEO)

平成25年度は「社会にリーダーシップを与えられる人材育成を目指して」という活動方針に沿った年間スケジュールを定めて活動を展開しました。特徴のある三つの活動を紹介します。

#### 自主活動サポート助成金制度(チャレンジ・ファンド)

平成23年度から「自主活動サポート助成金制度(チャレンジ・ファンド)」を創出し、3年目に入りました。この制度は、IYEOの人的活力をより社会に提供すること、また団体として活性化を図ることを目的としています。年に2回申請を受け、幹事会での選考を経て承認されると、10万円を上限とした助成金が得られます。平成25年度は9件が申請・承認され、7件の活動が実施されました。(詳細はウェブサイトでご覧ください。http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/challengefund.html) (日本語のみ)

- ・ 介護・地域リハビリテーション研修会「日本の介護の未来を明るくするために～海外からみた日本～」(鹿児島県青年国際交流機構主催)

様々な分野から参加者(スタッフ含め90名)が集まり、基調講演や事業報告を実施しました。ワーク

ショップでは、積極的なディスカッションが行われました。青年社会活動コアリーダー育成プログラムの既参加者で、福井県において理学療法士をしている会員を基調講演の講師に迎え、高齢者と障がい者が地域で暮らし続けるための考え方、リハビリテーションの目的、介護の主役である介護職のあるべき姿を自らの経験を踏まえて分かりやすく、また、これから迎える超高齢化社会に向けた希望と挑戦について話しました。



- JaM Youth Change (日本・メキシコ学生会議主催)  
「世界青年の船」事業の既参加青年が代表を務め企画した「JaM Youth Change」では、日本とメキシコの国交樹立400周年を記念し、学生交流プロジェクトとして、学生20名で勉強会やディスカッションを行いました。渡航前に3回行った勉強会は、一般向け講演会を兼ね、このうち2回(テーマは「日墨の歴史を知ろう」「環境から見る日墨のつながり」)はチャレンジ・ファンド助成金対象事業として実施しました。

#### 大規模災害積立金による寄付

平成25年11月上旬にフィリピンを直撃した台風による被害に対する募金活動を行った結果、合計902,805円が集まり、「東南アジア青年の船」事業フィリピン事後活動組織(SIP)へ送金しました。

IYEOからの寄付金は、被災者のための仮設住宅用のテント購入に充てられました。

#### スリランカ教育支援プロジェクト

##### One More Child Goes To School

日本での活動は、2008年にSWYAAスリランカと協同で開始されました。IYEOは、2010年からフォスター・ペアレンツ(里親)制度を始め、2013年までに62名の里親が南部マータラ県ブダ・ジャンティ・ヴィダラヤ小学校に通う69名のスリランカの5歳~10歳の子供たちを支援しています。IYEOでは、毎年里親の数を増やし、プロジェクトも拡大しています。

2014年からは、プロジェクトの体制を整え直し、IYEO主導の下、SWYAAスリランカの既参加青年の協力を得てプロジェクトを再スタートさせました。

スリランカの「世界青年の船」事業既参加青年は、プロジェクト・アドバイザー、コーディネーター、また、子供たちとのコミュニケーションの協力者(シンハラ語のレターの英語翻訳等)としてかかわっています。

2013年11月にはプロジェクト・リーダーが、支援先の小学校を訪問し、パソコン、プロジェクター、掃除用具一式、学用品等を寄贈しました。また、スリランカの小学4年生に日本文化や日本の歌を教える特別授業も行いました。

さらに、2014年4月には、毎年春恒例のチャリティ・イベントをスリランカレストランで行い、集められた寄付で学用品を購入する予定です。



#### ケニア

Tupendane学校(イヴズ・デイ・ジュニアスクール)サポート・ケニア・プロジェクト(ナイロビ)

Jonathan Okwiri(SWY22)が取り組むTupendaneプロジェクトは、ダンドラのスラム街にある学校を支援しており、現在、その学校には190名の子供たちが通っています。

プロジェクトを通じて様々な活動が行われており、日本の既参加青年からは、ラップトップパソコン、筆記用具、本等が提供されたほか、トルコの既参加青年は、地元の学校の子供たちからケニアの子供たちのためにと寄付された学用品を提供しました。彼らは学校へ資金提供も行っています。





## メキシコ

Dignifica tu Vida, I.A.P. (メキシコ・シティ)

SWYAAメキシコが支援している団体Dignifica tu Vida, I.A.P.は、衣服、履物、おもちゃ、工場やデパートからの新品の電化製品をメキシコ市、メキシコ州、プエブラ州、トラスカラ州の極貧ではないが社会的に孤立している地域の人々に届け、経済的に不安定な人々を支えています。2013年8月25日に15名のメキシコの既参加青年が寄付された品々を分類したり、清掃、必要な物品提供、すべてを整頓するための棚の塗装などを行いました。



## ニュージーランド

既参加青年の活躍

ニュージーランドの事後活動組織には優れたメンバーが大勢います。

以下が、この一年で活躍したメンバーの概要です。

- Sonya Clark (SWY25)がヴィクトリア大学ウェリントンの学生会代表に選ばれました。
- Dee O' Carroll (SWY25)がハークネス・フルブライト・ニュージーランド友の会で表彰され、マッセー大学で博士号を取りました。
- Marama Papau (SWY20)は、Tagata Pasifka (大洋州の人々や彼らの活躍を取り上げるTVプログラム)の最前線で活躍する一人です。
- Areti Metuamate (SWY21)は、Woroni (オーストラリアの国立大学の学生新聞)の副編集長です。
- David Jones (SWY20)は、初めてトライアスロンに成功しました。

## オマーン

SWYAAオマーン・デー

SWYAAオマーンのメンバーは、年に一度のSWY-Dayに三つのイベントを企画し、活動に参加する人から寄付を集めました。一つ目は、ラマダン月の「断食ブレイク」。国外からの移住者200名に有名なレストランの地元料理、新鮮な果物や飲み物を提供しました。二つ目として、オマーンの中でも最高レベルの病院の一つでもある献血バンク研究所で献血活動を行いました。三つ目は、今年初の試みとして、ヘナで手に模様を描く女性ボランティアたちを支援し、孤児院へ贈り物を届ける活動を行いました。20名の女の子が女性ボランティアにヘナで模様を描いてもらい、既参加青年は120名の孤児に贈り物を届けました。近い将来、孤児院で更に大きな活動を行う予定です。



## ペルー

クリスマスの社会貢献活動(12月21日 リマにて)

ペルーでは、2013年12月21日にリマで地元の子供たちのために、「世界青年の船」事業への熱い思いと国際理解の促進、友情を育むための社会貢献活動を行いました。68名の6歳~12歳の子供たちが、リマ北西部から45分ほどにあるカヤオで「世界青年の船」の精神とクリスマスを祝いました。カヤオは、ペルーの主要な港町で知られており、主要な国際空港もあります。ビーチや要塞があり、とても美しい場所もありますが、残念なことに貧困率が高い地域でもあり、青少年にとっては、自由に遊び回る安全な場所が不足しています。そのため、我々は、古くからの町カヤオにあるキリスト教のNGO(Centro Hermano Thomas Helm)を訪れ、子供たちのための一日保護施設において活動しました。「世界





中のクリスマスと新年を祝おう」というテーマでクリスマス・デーを企画し、子供たちは、日本、米国、リトアニア、フランスを旅する設定で、休日を祝う様子をビデオや話で垣間見ることができました。各国の情報は「世界青年の船」事業の既参加青年や「国際青年育成交流」事業に参加した仲間の協力を得て集めました。当日は、ゲーム、ビデオ、歌と遊び、キャンディーや飲み物、ペルーのクリスマスに用意されるチョコレートやパヌトン（レーズンやフルーツが入った甘いパン）が振る舞われ、笑顔で溢れていました。

この活動は、サンミゲル工業の友人たち、外務省職員、施設「Soy Autista y Que」、Political Sciences Alumni – PUCP、「世界青年の船」事業と「国際青年育成交流」事業の既参加青年の温かい寄付により実現することができました。US\$500の寄付金が集まりました。



## スペイン

東北南三陸「玉手箱プロジェクト」

2011年の東日本大震災の被災者のための募金活動です。第13回「世界青年の船」事業既参加者の高橋裕一郎さんが現地で活動しており、プロジェクトにかかわる我々と日本人グループの橋渡しをしてくれています。南三陸町の被災者が作った手工芸品を詰めた箱（玉手箱）をプロジェクトを紹介するリーフレットとともに販売し、手工芸品の購入とプロジェクトへの貢献を呼びかけています。寄付はすべて東日本大震災の被災者に届けられます。

## スリランカ

SWYAAナイト（SWY25）

SWYAAスリランカは、第25回「世界青年の船」事業



の訪問国活動に最大限の努力をして貢献しました。ライト・ハウス・ギャラリーで「SWYAAナイト」を企画し、多くのSWYAAスリランカの既参加青年がこのイベントにかかわり大変盛況でした。

## スウェーデン

- 2013年4月にKarl-Gunnar Eriksson（SWY23）がSWYAAスウェーデンのÅsa Danielsson会長と共に日本国大使館を訪れ、既参加青年東京連絡会議（2013年3月実施）の報告とSWYAAスウェーデンの活動報告をしました。
- IYEOスリランカ教育支援プロジェクトOne More Child Goes To Schoolに10,000円を寄付しました。
- Tupendaneプロジェクトに10,000円を寄付しました。
- オーストラリアのKIVA少額融資プロジェクトにUS\$250を寄付しました。

## タンザニア

ムカタ村での植林活動

SWYAAタンザニアはムカタ村と協力して、モロゴロ地区に位置するこの村で、およそ200種類の植林活動を行いました。また、植林活動とは別に、SWYAAタンザニアのメンバーは、ムカタ村で環境保護を考える簡単なセミナーを開催しました。セミナーでは、森林破壊につながる木炭製造のための木の切り倒しをしないようにと、村人へ呼びかけました。

## トンガ

SWYAAトンガは他国の多くの既参加青年、特に日本、オーストラリア、ニュージーランド、フィジーからの既参加青年を迎えています。彼らの訪問時には、ホームステイをアレンジします。訪問者によって、我々も彼らと楽しい時間を過ごし、交流する良い機会となっています。また、トンガの歴史的な場所や船上でのナショナル・プレゼンテーション（特にトンガの踊り）を思い起こす文化センターへの訪問を企画しています。SWYAAトンガは、近い将来、更に既参加青年を迎えることを楽しみにしています。

## トルコ

ジャパニーズ・チャリティー・バザー

（2013年4月21日 アンカラにて）

日土女性友好文化協会（Turkish Japanese Women Friendship and Culture Association）は、日本で学ぶトルコ人の学生とトルコで学ぶ日本人の学生のための募金活動として、2013年4月21日にチャリティー・フェアを開催しました。フェアには、300名以上が参加し、様々な活動が行われました。日本の伝統的な食べ物や飲み物、衣装、宝石、手工芸品、瀬戸物を販売するスタン

どもありました。SWYAAトルコのメンバーは、Nihan Oral (SWY25)、Mustafa Sarıyılmaz (SWY24)、Didem Tari (SWY22)、Gül Ekşi (SWY12)が日本から取り寄せた伝統的な日本の手工芸品と瀬戸物を販売し、30分で完売しました。Didem Tari は、タコ焼きを作り、抹茶ラテを販売しました。大使館が全面的に活動を支援してくれたほか、SWYAAトルコのメンバーは、大使夫人が出店したスタンドの手伝いをしました。イベントは大成功し、US\$1,000が集まりました。日本の文化を紹介する活動としてだけでなく、生徒たちの資金援助も実現しました。



## UAE

ユース・フェスティバル(2013年12月12~13日 アブダビにて)

UAEの様々な市の青年を対象としたフェスティバルです。文化交流とかかわり合いを通じて青年に刺激を与え、彼らの生き方を変える機会となりました。6名の既参加青年を含めた約80名が参加しました。

## 英国

SWYAA英国は、ケニアの既参加青年と共同で、ダンドラ(ナイロビのスラム街)の青少年の教育の必要性を明らかにするためのリサーチプロジェクトを立ち上げています。SWYAAの仲間がこのプロジェクトに協力してくれること、地域の充実支援をこのプロジェクトの目的としています。

## ベネズエラ

EUSAプロジェクト - カラカスでの職業教育(ジョブ・シャドウイング)

2013年にSWYAAベネズエラは、新たな国際的なボランティアプロジェクト(EUSA - Encouraging Sustainable Action Through Unity)に五つの青少年団体と共に参加しました。

五つの青少年団体は以下のとおりです。

1. European Platform for Youth Development (ルーマニア)
2. Aljaraque en Acción (スペイン)
3. Cardiff Youth Council (英国)
4. ORPAS (ブラジル)
5. OAJNU (アルゼンチン)

欧州連合のユースインアクション基金が使われるこのプロジェクトは、地球的規模の問題に立ち向かうための総合的な共通行動戦略を創り出し、ラテンアメリカと欧州連合の成功事例を学び、その連携が急務である青年の起業家精神を育むことを主な目的としています。



SWYAAベネズエラの3名のボランティア (Andreína Soto, Carlos Reséndiz, Johalis Ramírez) は、上記に記された国々からの15名のボランティアと共に、ルーマニアで開かれた全参加者のスキルと能力の強化と対人関係性を築く能力開発セッションに参加しました。

職業教育(ジョブ・シャドウイング)は、ヨーロッパと南米で行われました。2013年6月には、SWYAAベネズエラは、スペイン(Aljaraque en Acción)とルーマニア(European Platform for Youth Development)からLucía Gómez氏とCristian Thoma氏を受け入れました。彼らは滞在中にベネズエラの青年の起業家精神の現状を調査し、SWYAAベネズエラは、課題別視察(NGO訪問)を設定して以下を訪問しました。

- Asociación de Jóvenes Empresarios de la Universidad Simón Bolívar (AJE USB) - シモン・ボリバル大学青年実業家グループ
- Asociación de las Naciones Unidas de Venezuela (ANUV) - ベネズエラ国際連合協会
- Superatec, Fundes, Grupo Social CESAP - 社会グループCESAP(労働者を守る非営利団体)
- Banauge and Opción Venezuela - (マイクロ企業家を支援する市民のための非営利団体)

彼らはまた、エル・システム（公的融資による音楽教育プログラムの有志団体）によるファンダ・ミュージカル、ドクター・ヤソー（ピエロに扮して闘病中の子供たちを元気付ける活動をする団体）、文化的多様性と対話を促進する団体（SOS Aldeas Infantiles）と共同でボランティア活動を実施しました。さらに、バルガス州のカラバダにあるEBEルイスカストロ小学校を特別訪問しました。ボランティアたちは、6歳から12歳の子供たちを対象とした異文化理解の重要性に気付かせる非公式教育活動を準備しました。

プロジェクトの最終成果は、9月にウェールズで開催される会議で発表され、その結果が欧州当局に報告されます。プロジェクトの成果は、英語とスペイン語でまとめられ、参加各国で配布されます。



< SWYAA国際連盟準加盟国 >

#### ロシア

RUSWY Train（ロシアのSWY列車）

SWYAAロシアは、RUSWY Trainを企画していま

す。プロジェクトの目的は、SWYAAの仲間がロシアの文化に親しみを持ち、持続可能な社会に貢献することです。最終的な目標は、以下のとおりです。

- 参加者にロシアの生活様式、歴史、文化的伝統を身近に感じてもらう
  - 「世界青年の船」事業参加国の青年の理解と協力の促進
  - 参加者のリーダーシップ育成
  - 訪問先（都市）でのボランティア活動の実施
- プログラムでは、五つのチームに分かれ、各グループにトピックが与えられます。参加者は写真付きのブログやビデオを作成する等を通じて意見を出し合い、トピックの内容を深めます。旅の成果は、ウラジオストクで五つのプロジェクトとして発表されます。

日程：2014年6月23日～7月13日（21日間）

参加者数：30名（最大） 主催者は含まれない

訪問先：モスクワ、カザン、エカテリンブルグ、ノヴォシビルスク、イルクーツク、ウラン、ウデ、ウラジオストク

連絡先：<http://ruswyaa.org/>

#### 南アフリカ

2013年は、休止状態であった組織が再び活動を始めました。Facebookを使って簡単な意見交換をし、役員を選出しました。規約とニュースレターを作成する自発的なメンバーも現れました。先は長い道のりですが、南アフリカの既参加青年皆に呼びかけ、初のリユニオン実現についても話し合っています。